質問も討論も一切合切議場に一時に計り、その無法のあまりに甚だしかつたので忙然としておつた代議員に賛否が明らかでないうちに『今の間に』とばかりにギヤベルをならして所謂即決否決の採決をなしたのである。事此處に到つては、先程よりこちへ集たる此の議長の横暴ぶりと執行委員の横暴振りに對し、同じ執行委員の一人である東部合同の渡邊君が立つて『我々は必ずしも議長不信任案に賛成するものではないが只今この議長の横暴不公平振りを見、且つ他の執行委員の我らに對する態度を見るも我らは到底かくの如き議場に於て、此の重要なる同盟の運動方針を決定するが如き議案を審議する事を得ないと思ふが故に私は斷然この議場を退席する』と席をけつて退場、それに續いて關東印刷勞働組合、横濱合同勞働組合、時計工組合、東部合同勞働組合の各代議員三十有餘名は同樣の聲明を爲し相次いで退場した。此れが所謂退席問題の退席當時の事情である。此の時のことは誰よりも公平なる第三者として傍聽者誤かりなく承知してゐることである。

我々は當日大体以上の如き理由と事情のもとに退席した、と云ふよりも退席せざるの止むなき立場に陥し入れられたのであつた。

我々は議場を退くと直ぐ、四組合代議員の他に二百餘名の傍聽各組合員と共に、總同盟本部に引揚げ、各組合代議員中の院内總務のみか集り、先づ意見をまとめたるに『我々はあの横暴な議長か更迭されなければ絶對に議場に戻らす、然乍ら若し議長か更迭されるならば我々は何も大會そのものに對し不信を抱き反抗したるものでない故に何時でも議席に戻る』と云ふ意見か一致しこれを全体に計り、承認を求めたるに全部の意見かそれに一致した。處へ會場より執行委員望月、齋藤の兩君及び他に小岩井君も來て無條件で議席に歸つてくれぬかとの交渉であつたか我々は議長を代るなら

ばと答へたか議長更迭は不可能であると云はれたのでそのまま物別れとなつた。

終りに我々はこの所謂退席問題に就いて巷間とりどりの風聞に就いて我々の今後の立場を聲明しておく。

十月六日東京報知の朝刊は『早晩四組合は總同盟を脱逸するであらう』『この四組合は總同盟を脱退することによつて、むしろその眞の生命を握る事が出來るであらう』と報じてゐるか、あまりに物識りな新聞記者は、大會における議長の不信任若しくは一個人の問題位で幾百萬の無産大衆の戰線を紊り、分裂を起し、我か四組合か脱退する程我らか馬鹿でない事に就いては一向無知であつた。　凡そ如何なる時にも我らは無産大衆の陣列と戰線の統一を重んずるのである。故に我々としては毫も總同盟脱退などの意志を有するものでない。增々今後眞に無産階級解放戰線に於て多くの兄弟と より緊密に手を握り合ふと考へてゐるものである。

更らに我々がこの際退席したことにより、神聖にして且つ眞劍なる勞働者の幸福と利益を計るべき討議の席を混亂したるものとして我々四組合員に對して階級戰線を亂すものとの非難風聞があるが、凡そ眞に無産者の究極の解放を考へその運動をなしつつあるものが如何にしてその神聖なる議場を亂そうぞ。唯我々は誤られた議論と間違つた政策か採用される事即ち眞の無産階級解放にとつて、有害なる、又無用なる議論か爲されんことを恐れ、我々はただあまりに眞實に全無産階級の立場を考ふるの故のみ一部の無能にして横暴なる分子所謂職業的運動家と戰つたまでである。此の事を階級戰線に立つて忠實に働きつつある眞の有能なる組合員諸君は誤りなく考へられたいものである。

終りに我々はいづれ諸君の前に、大會當日我々の各自組合提出議案に就いて何を主